

## 学校図書館予算が少ない

### 文科省基準の6～7割という低さ

3月議会の予算審議の中で、私は学校図書館の図書購入費について質問しました。鈴鹿市の30小学校、10中学校への年間図書購入予算配分は、

小学校 総額1348万円 1校当り31万円～64万円（学校規模による）

中学校 総額820万円 1校当り71万円～106万円

となっています。一方、文部科学省は図書購入費の基準を決めています。

小学校（18学級）68万8000円 中学校（15学級）116万2000円

この基準にてらすと鈴鹿市は、小学校78%、中学校60% しかないのです。せめてこの基準をクリアーしようとしたら、小学校1730万円、中学校1370万円に予算を増やさねばなりません。どこの学校でも担当の先生が、図書館利用を進めるための工夫や努力をしていますが、肝心の図書予算が少なくては魅力ある図書館活動は出来ません。

### 市立図書館の図書費、一般財源はたった500万円

2006年度に3000万円から2000万円に大削減された図書購入予算、3年目の08年度もそのままです。しかも、そのうち1500万円は宝くじのオータムジャンボからの交付金を「図書購入助成金」として受けるもので、市の持ち出し（一般財源）はわずか500万円にすぎません。

私は「この宝くじからの助成金の目的は、図書購入を増やすためのものなのか、それとも市の持ち出しを減らすためのものなのか」と聞きましたが、市側は「とくに助成金の用途は限定されていませんので」との答弁。私は「こんな使い方は、もらった相手に対して失礼だ」と批判しました。

学校図書館も公共図書館もこのように、鈴鹿市は全国レベルにくらべてひじょうに遅れています。せめて全国平均並みにすることが求められます。

# なかなか進まない地方の生活道路

3月11日の本会議一般質問で、私は西部地域の道路事業について質問し、「道路特定財源」が毎年5兆円もあるのに、いっこうに地方の道路整備にまわってこない現状をただしました。

## 県道神戸長沢線（中央道路延伸）

汲川原橋（ベルシティ西）から三畑町までのバイパス2キロが2003年にやっと開通しましたが、そこから東名阪鈴鹿インターまでの2キロの4車線化が、4年たっても進んでいません。新名神高速がこの2月に開通したあおりで、鈴鹿インターの出入りがいっきに増えて朝夕の渋滞がきびしくなってきました。なのに今のペースでは今後10年以上かかる予定です。

## 国道306号線（伊船バイパス）

私が伊船バイパスの必要性を提唱したのが、今から17年前の91年でした。それからルートが決まり、着手したのが95年、工事が始まったのが03年という超スローぶりです。伊船バイパスは津市からいなべ市へのルート中、一番最後に残されている部分で、あと3年で鈴鹿インター前までの1060メートルが開通の予定ですが、その先の700メートルは未定のままです。

どちらの道路も県の事業ですが、県予算が国直轄道路や高速道路に多く取られて生活道路への配分が少なくされているのです。「道路特定財源」として毎年5兆円もの予算が確保されているのに、地方の道路が20年も30年も完成しないのは、その多くがムダな高速道路などに回っているからです。一般財源化して地方に配分することが、いちばんの解決方法です。

---

## フラワー道路は県道に移管すべき

四日市から鈴鹿西部を横断して亀山までつなぐ「フラワー道路」は、もともと広域農道として県が造ったものですが、各市の「市道」にされています。そのため鈴鹿市はその維持修繕に、これまで約3億円も出費させられています。私は、早く県道に移管するための協議を行うことを求めました。

## 3月補正予算で18億円も税収増に

3月14日の本会議に提案された最終補正予算に、個人市民税3億5200万円、法人市民税14億8800万円もの税収が上乘せされました。補正後の個人市民税は114億円、法人市民税は69億円となります。

私は「増収はいいことだが、12月時点で分かっていたはずだ。なぜ12月補正予算に上げずに隠していたのか？」と聞きました。市側は「隠すつもりはなかったが、使い方を検討していた」と答え、この増収分を「庁舎建設基金」に5億円、「公共施設整備基金」に13億円、まるまる積み立てに回しました。消防庁舎の建て替え、神戸・平田野中学校の移転など、大きな事業を控えて金を貯めておこうというのも、悪いことではありませんが、しかし財政的な余裕の一部を、ケチケチ削ってきた図書館などの文化、遅れている福祉や医療に回そうという発想がないのは、残念なことでした。

## 消防南分署を「南消防署」に格上げ

この4月から、白子の南分署が「南消防署」となり、これまでの本署が「中央消防署」と変更されます。南署の管轄地域が人口5万人と大きくなり、格上げとなったものです。人員も4人増えて25人体制となります。

### しかし、消防職員の総人数は186人から増えず

一方、毎年増やしてきた消防職員は、昨年と同じ186人のままとなっています。そこを質問すると、「2人増やす予定が、1人辞退、1人退職があったので」との説明でした。したがって南署に増やす4人は、中央署の人員を減らすということになり、実質的な体制強化になりません。もともと国の基準の63%という人員の少なさが大問題なのですから、思い切って増員を進めることが緊急に求められています。

## 川岸市長、退職金こんどは「減らさない」

昨年5月に1期目の退職金1900万円支給となった川岸市長に私は、こんどは廃止してはどうかと質問しましたが、市長はこのまま変えないと答えました。しかし常識的に考えて、4年でこれだけはもらい過ぎでしょう。

## チベット民族問題を考える

中国のチベット自治区での暴動事件のニュースが連日報道されている。私は昨年夏に、中国四川省に観光旅行をしたが、その有名な世界遺産「九寨溝」「黄龍」周辺はチベット民族の住む地域であったので、関心を持ってニュースを見ている。

日本の上高地を何十倍にしたような溪谷「九寨溝」とは、「チベット人の9つの村」との意味である。そこに住んでいた人々は、世界遺産のために農耕や牧畜を禁止させられ、下の町に移住して観光写真や土産店で生活している。この観光資源でもうけているのは中国人（漢民族）である。自治区の首都ラサにも中国人がどんどん移住し、政治経済を牛耳っているという。チベット人は自分たちの住む地域の「自治」を奪われ、主人公の地位を失っている。それが、たびたび起こる暴動の背景となっているのである。

### 民族自決を実行したロシア革命の社会主義政策

かつて1917年のロシア社会主義革命の指導者レーニンは、最初の仕事として、帝政ロシアが併合し不法に占拠していたポーランド、フィンランド、バルト三国の独立を無条件で認め、世界政治のうえで大きな信頼を得た。ところが、次のスターリンがこの民族自決の原則をくつがえし、ヒトラーと取引して再びバルト三国、東ヨーロッパを大国主義ソ連の勢力圏に取り込んだのである。せっかくレーニンが社会主義の優位性を世界に示したものを、スターリンがすべてパーにしてしまい、後の91年、ソ連自体の崩壊につながる大きな原因にもなったのである。

中国共産党も、スターリンほどではないにしても、社会主義中国の建国後すぐに、チベットを併合して民族自決の原則に反する行動に出た。これは大きな間違いであり、50年以上たっても問題は解決どころか、深刻な状態が続いている。北京オリンピックを前にして、世界の評判を落とすような問題は、ただちに解決すべきであるが、その際には「民族自決」の原則に立ち返ることが唯一の道となるだろう。

チベット人は誇り高い民族、信仰に生きる民族として有名である。四川省で見た華やかで勇壮な民族舞踊が、今も心に焼き付いている。